

チェックシート
心 木 な し 瓦 棒 葺
同カバールーフ
中 間 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	溝板の厚さは、0.35mm以上で且つ仕様書通りの厚さが使用されているか。			
	吊子、キャップの板厚は、溝板と同等以上が使用されているか。			
	固定ボルトは、M6以上のボルトが使用されているか。			
	固定釘は、有効打込み長さ45mm以上が使用されているか。			
	座金は、厚さ1.0mm以上、直径20mm以上のものが使用されているか。			
墨 出 し	割付け、墨出しは施工図通りであるか。			
下 地 の 状 態 及 び 下 葺 き	野地板は規定のものを使用し、母屋2～3本にかけて敷き込んでいるか。			
	下葺き材は、アスファルトルーフ940以上のものが使用されているか。			
	下葺材の重ねは、100mm以上で横貼りとなっているか。又、縦貼りの場合は、200mm以上となっているか。			
	断熱材の使用は指定してあるか。使用の場合、同等又は同等以上の品質であるか。			
シーリング材	ハゼにテープの貼付又はコーキングがされているか。			
吊 子	固定釘は、250mm以内の間隔で止めてあるか。			
	固定ボルトは、母屋毎に堅固に止めてあるか。			
唐 草 け ら ば 納 め	唐草、けらばを釘止めとする場合、釘の長さは、32mm以上を使用、500mm以内の間隔で取り付けられているか。又は鉄骨下地に5～6mmのボルトで固定してあるか。			
	継ぎ目重ねは、30mm以上となっているか。			
	垂れ下がりは、野地板より10mm以上下がっているか。			
棧 鼻	後ろに倒れないよう工夫し施工してあるか。			
水 上 端 部	立上がり部分は、八千代折りを基準とし、水返しを付けてあるか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検査員資格番号

チェックシート
心 木 な し 瓦 棒 葺
同カバールーフ
完 成 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
け ら ば 納 め	鉄骨造のけらば納めは、必要に応じ5 ～ 6 mm のボルトと座金、パッキン(厚さ5 mm 以上、直径18 mm 以上)を使用して固定してあるか。			
	木造のけらば納めは、止め釘に座金をつけたものを使用しているか。			
キ ャ ッ プ	キャップの取付は、溝板になじみよく取り付けられていて十分な締付けがおこなわれているか。			
棟 納 め	棟包みは、棟板に32mm以上の釘を500mm間隔以内で止めてあるか。(防水テープでも可)			
	棟包みをせず、折り曲げ機を使用して棟を納める場合、折り曲げた両隅の部分の亀裂等の適切な処理をしているか。			
水 上 部 分 の 雨 押 え	継手部分は、棟納め方に準じて施工されているか。			
	雨押え板は、キャップ取付後に、各垂木ごとに釘止めとし、水切りは32mm以上の釘を500mm間隔以内で止めてあるか。			
	雨押えの水下側は、瓦棒間に切り込んで溝板まで下げているか。又は、エプロンを取り付けてあるか。			
	水切りの立上り寸法は、120mm以上になっているか。			
屋 根 材 方 向 の 雨 押 え	水切りの垂れは、一方は溝板の底まで折り曲げ、他の一方は120mm以上の立上りをして水返しを取り付けてあるか。(防水テープでも可)			
シ ー リ ン グ	各部分の必要な箇所へのシールは出来ているか。			
そ の 他	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。			
	屋根の上や関係する場所の清掃が行われているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検査員資格番号